

【国語】 <小学校 第6学年>

1 結果のポイント

- 「話すこと・聞くこと」については、話し手が伝えようとしている内容を正しく聞く力をみる問題などで、多くの問題の正答率が80%を上回っている。
 - 「書くこと」については、考えと理由を区別し、文章全体の組立てを考えて書く力をみる問題など、すべての問題の正答率が70%を上回っている。
 - 「読むこと」については、筆者が述べている内容を正しく読む力、考えの根拠となっている事実を正しくとらえて読む力をみる問題など、すべての正答率が70%を上回っている。
 - 「言語事項」については、漢字を正しく読む力をみる問題の正答率がすべて90%を上回っている。また、漢字を正しく書く力をみる問題、漢字の意味を考えて熟語を作る力をみる問題などの正答率は70%程度である。
- 他方、漢字を書く力をみる問題では、正答率が60%程度のものがある。

2 結果の分析

(1) インタビューの仕方にどのような工夫があるかを正しく聞く力をみる問題の例（「聞く能力」）

<問題> ㊦ の四

四 インタビューの中で、ひろしさんはジェフさんの答えを聞き、その答えから新しい質問をしています。そのことをジェフさんに伝えるひろしさんの言葉はどれですか。次のア～エの中から一つ選び、その記号を□の中に入力してください。

ア そのことに関して、今、考えた質問をしてよろしいですか。

イ まず、どうしてジェフさんは日本語を勉強しているのですか。

ウ 今日は大切な時間をいただきましてありがとうございました。

エ それでは、最後の質問です。日本語の難しいところはどんなところですか。

<結果> 正答率 88.4% (正答…ア)

<分析>

この設問は、インタビューを聞いて、目的や意図に応じて質問を工夫していることを理解しながら聞く力をみる問題である。多くの児童がインタビューの内容を正しく聞き取るとともに、インタビューする人が事前に準備した三つの質問と、インタビューされる人の答えによって、さらに尋ねたいことを質問した内容とを聞き分けることができていると考えられる。目的をはっきりさせ、そのためにはどんな質問をすればよいかを事前に準備するとともに、あらかじめ相手の答えを予想して次の質問を準備したり、さらに尋ねたいことが出てきたら関連させて質問したりする学習が行われ、力が定着していると考えられる。

(2) お礼の気持ちが読み手に伝わるように、感想を入れ、決められた字数で手紙を書く力をみる問題の例（「書く能力」）

<問題> ㊦ の五

五 ひろしさんは、ジェフさんからいろいろな話を聞くことができました。そこで、ジェフさんにお礼の手紙を書くことにしました。ひろしさんの気持ちになって、「ジェフさんの話についての感想」を入れて、手紙の中心部分を四行以上五行以内で書きましょう。

<結果> 正答率 73.8%

<分析>

この設問は、感謝の気持ちが効果的に伝わるように、表現を工夫してお礼の手紙を書く力をみる問題である。昨年度の類似問題の正答率が81.2%であったのに対し、正答率が低下した。その要因としては、昨年度の「インタビューにていねいに答えてくれたことに対するお礼の気持ち」という条件に対し、「『ジェフさんの話についての感想』を入れて」という条件が付加されたため、書く内容を整理する面で抵抗があったと考えられる。また、誤答の児童には、字数不足の解答も多かった。正答した児童は、ジェフさんの話から勉強になったこと、ジェフさんの夢に対する励ましの気持ちなどについて、限られた字数の中で書くことができていた。今後、相手や事柄をはっきりさせ、目的や意図に応じて内容を適切に書く力をより一層高めていく必要がある。

(3) 筆者が伝えようとしている内容を正しく読む力をみる問題の例（「読む能力」）

<問題> ㉓の一

- 一 この文章で、筆者は、電子メールの便利な点としてどのようなことを取り上げていますか。次のア～エの中から一つ選び、その記号を□の中に書きましょう。
- ア 手紙に比べ、料金が安くすむこと。
 - イ どんな相手でも、必ず返事が返ってくること。
 - ウ 好きな時間に送ることができること。
 - エ 漢字や記号も、そのまま送信できること。

<結果> 正答率 89.4% (正答…ウ)

<分析>

この設問は、文章全体の構成をとらえ、書かれている内容を正しく読み取る力をみる問題である。この問題では、「電子メールが便利であることが分かるでしょう。」「電子メールは、とても優れた伝え合いの手段だと考えられます。」などの表現に着目し、3の段落で電子メールの便利な点が取り上げられていることをとらえる必要がある。正答率が90%程度であったことから、文章構成をとらえるとともに、語句の使い方を手がかりに、内容を的確に読み取る力が付いていると考えられる。

(4) 5年生までに習った漢字を正しく書く力をみる問題の例（「言語に関する知識・理解・技能」）

<問題> ㉔の(1)、(4)

- 次の文の——部を漢字に直して、下の□の中に書きましょう。
- (1) 平等に 分けても あまる。
 - (4) 楽しい ゆめを 見る。

<結果> 正答率 (1) 61.8% (正答…余) (4) 92.8% (正答…夢)

<分析>

この設問は、5年生までに学習した漢字を正しく書く力をみる問題である。(4)の「夢」は90%以上の高い正答率であった。その要因として、児童がこの漢字を日常的によく使っていることが考えられる。他方、(1)の「余」の正答率は60%程度であり、誤答には、「残」「除」など、漢字の意味や字形について混同した誤りが多かった。また、無解答の児童も多かった。意味や字形のイメージはあるものの、実際には正しく書けない状況であると考えられる。今後、漢字についての知識を身に付けたり、漢字を確実に覚えたりするとともに、日常生活の中で漢字を使う場面を意図的に設定するなど、継続的に指導を行う必要がある。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

- ・「話すこと・聞くこと」については、相手の意図をつかみながら聞く力とともに、的確に話す力、計画的に話し合おうとする態度を育成する指導の一層の充実を図る必要がある。そのためには、各指導事項を年間指導計画の中に適切に位置付けるとともに、「話すこと」と「聞くこと」について相互に関連をもたせたり、それぞれの指導事項について繰り返して指導したりすることができる指導計画となるよう見直しを図る必要がある。
- ・「書くこと」については、他の指導事項にかかる「ア 目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書くこと」に重点を置くとともに、他の指導事項との関連が明確な指導計画となるよう見直しを図る必要がある。また、単元の中にまとまった文章を書く活動を位置付け、書き方を学習できる指導を行うとともに、児童自身が身に付けた力を自覚し、他の教科や日常生活に生かすことができるよう、単元の終末の学習活動を工夫するなどの改善が必要である。
- ・「読むこと」については、文章を読んで主題を考えたり要旨をとらえたりすることや、叙述に即して想像を広げたり、自分の考えを明確にしたりしながら読む力を育成する指導の一層の充実を図る必要がある。そのために、指導事項の「ウ 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと」等に重点を置き、児童の学習状況を継続的にとらえ、系統的、発展的に指導できる計画となるよう見直しを図る。また、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てるために、図書館を利用して必要な図書資料を選ぶ指導を確実に位置付けるよう配慮する。

(2) 指導方法の工夫改善

- ・「話すこと・聞くこと」については、話す意図を明確にししながら、目的に応じた言語活動を展開することが大切である。そのために、具体物を示しながら話したり、資料を基にししながら説明や報告をしたりする言語活動を取り入れるようにする。また、話し手が自分の考えや意図を伝えるために、どのような話し方をすればよいかを学習する際に、意図した話し方ができているかどうかを注意して聞くように指導することで、「話す力」「聞く力」が関連して高まるよう配慮する。
- ・「書くこと」については、目的や意図を明確にして書く力を育成するために、生活の中で実際に書くことが予想される書式や様式（「礼状」「依頼状」「報告文」など）を適切に位置付ける。その上で、書こうとする意識が高まるよう題材を工夫し、相手に伝えたい内容を効果的に伝えるための書き方を明らかにして指導することが大切である。また、その中で児童の主体的な取組を積極的に評価し、日常の生活に生かそうとする態度を育てるよう配慮する。
- ・「読むこと」については、児童が身に付ける読み方を意識できるよう、重点的に指導する時間を設定することが大切である。また、身に付けた読み方を生かして、児童が自分の力で読むことができるよう学習活動を工夫する必要がある。さらに、書き手の意見、感想をとらえることにとどまらず、それらについてノート等に整理し、自分の立場からどう考えるかを常に意識しながら読む学習を積み重ねることで、主体的に読む態度を育てることが大切である。
- ・漢字を書く力については、当該学年では漸次書けるように指導するとともに、次の学年までに文や文章中で適切に使うことができるように、作文やノート、掲示物などで漢字を書く機会を日常での指導の場としてとらえ、継続的に見届け、価値付けるよう配慮する。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

- ・表現したり理解したりするために必要な語句について、日常的に国語辞典を利用して調べる習慣を身に付けるように、身近に辞書を整備するなど学習環境を整え、活用の機会を意図的に設定するようにする。また、学校図書館における本の分類の知識や検索の仕方の学習を位置付け、学校図書館の利用指導や環境整備を行い、児童が日常的に学校図書館を活用できるよう配慮する。
- ・国語の授業を通して身に付けた言語能力を、総合的な学習の時間や学校生活の中でも積極的に発揮しようとする、国語に対する興味・関心の高い学習集団を育成することが大切である。

